

# 学校関係者評価報告書

## 1 自己評価の報告の概要

- 保護者と教職員を対象にしたアンケートを実施し、保護者の結果では、ほとんどの項目に関して肯定的な評価（A評価+B評価：以下同じ）が90%以上である。90%を下回るものは、「学部間での適切な引継ぎ・一貫した教育」「進路指導」（いずれも保護者アンケート）であった。
- 教職員については、前年度と比べ大きな変化はなく全項目において肯定的評価が90%以上である。
- 以下は保護者アンケートについて
- 肯定的評価の割合が若干低くなった項目が多かった（15項目）。3項目は2～5ポイント程度低下した。
- 昨年89.7%（A:41%、B:49%）であった「学部間での適切な引継ぎ・一貫した教育」については、87%（A:41%、B:46%）と2.7ポイント低下し、質問項目の中では最も低い。
- 昨年5ポイント程度改善し94%（A:45%、B:49%）であった「進路指導」については、89%（A:45%、B:44%）と5.4ポイント低下した。

## 2 評価委員の評価結果

- （本校の取り組み状況について）苦労もありながら丁寧に説明もなされていて、よくやっている。
- （地域の行事での販売学習や関係機関に来校してもらっての行事などにも関連して）本校の作業学習の取り組みや作業製品のクオリティの高さ、生徒が達成感を得ている状況などがすばらしい。
- コロナ禍ではあるが、リモートを活用した交流学習が充実していた。

## 3 評価委員の提言

- アンケート結果の否定的評価については将来の漠然とした不安からくるものではないか。情報の出し方がポイントになる。
- コロナ禍で保護者との協働ができず保護者と職員がお互いに理解しにくい。（感染状況が好転し）例えば参観などで子どもの姿だけでなく職員の姿も見ていただけるとよいのではないか。

## 4 学校関係者評価を踏まえた改善方策

### 「学部間での適切な引継ぎ・一貫した教育」について

- 丁寧に作成された書類をもとに引継ぎを行っているが、引継ぎ資料の内容について、今後も精選を行い、より活用しやすいものにしていく。また、年間を通じて引継ぎ資料を丁寧に確認する。
- 今年度継続する支援、年齢に応じて少なくする支援について、保護者に最初の懇談で確認する。
- 小中高の接続について、各学部の保護者が他学部の様子を見ることができるような行事等の機会を検討する。
- 他学部の指導方針等について理解が深まるように、教職員の校内での交流体験を新規に検討する。
- 進路指導の段階で、進学する学部の指導方針や取り組みについて保護者がさらに理解を深めて進学を考えができるように情報提供を行う。

### 「進路指導」について

- キャリア教育として、小学部段階から今後も係活動や当番活動、清掃活動の指導に取り組んでいく。
- 小学部・中学部段階においても、高等部進路指導主事も参画した進路懇談を引き続き設定したり、高等部の進路に関する保護者研修会の案内先を広げることを検討したりする。
- 教師の施設見学をとおしてさらに情報収集を行い保護者への情報提供及び進路だより等による情報発信の充実を図る。